

南禅寺 周辺エリア

～禅林寺(永観堂)・
琵琶湖疏水・別邸群～

エリア概要

- 若王子神社・永観堂から南禅寺にかけての社寺地帯は、多くの文化財と美しい自然とが調和した環境を維持している。南禅寺中門からインクラインの間では、松並木の参道が続き、両側の家屋と道の間に植樹帯が連続してゆとりある緑豊かな景観を見せている。家並みには、塀をめぐらせた邸宅や料亭、あるいは開放的な茶店風の料理屋などがある。
- インクライン以西では、和風の塀と庭の樹木、生垣、和風住宅などが混在して、調和のうちにも変化のある景観が見られる。
- 南禅寺境内の北側には、明治時代の琵琶湖疏水建設に際して庭師小川治兵衛が開発した庭園群の特別な景観がある。各屋敷には疏水の水を利用

した広大な庭園を構え、注意深く配置された樹木、塀、数寄屋などの間を縫って、白川から屋敷群の中を抜ける美しい道は参道のような趣がある。

- 岡崎・南禅寺地域は、京都の近代化の一翼を担ってきた地域でもある。明治23年には琵琶湖疏水が開設し、翌24年には蹴上に日本で最初の水力発電所が完成し、電力供給が開始された。その後、内国勸業博覧会の開催や建都1100年を記念しての平安神宮の創建、岡崎公園の整備などを契機として次第に市街化が進んでいった。

南禅寺

南禅寺一帯は、社寺などにより歴史的環境を醸し出している地域であるとともに、京都の近代化の一翼を担ってきた地域である。

南禅寺境内は、歴史的建造物、樹木等及びそれらの背景にある空間によって一体的に構成される。



方丈庭園

南禅寺参道

明治22年の地図にもこの道は描かれており、東山を望見しながら道沿いには無鄰菴等の疏水を引き込んだ庭園、インクライン、南禅寺、南禅寺塔頭、禅林寺(永観堂)が見られ、このエリア一帯の時代性を感じさせる。南禅寺中門からインクラインの間では、松並木の参道が続き、両側の家屋と道の間に植樹帯が連続してゆとりある緑豊かな景観を見せている。



三条街道より東



鹿ヶ谷通



別邸群

東山裾の南禅寺旧境内一帯では、明治28年以降、旧境内地及び塔頭跡地が民間へと払い下げられ、そこに疏水の水を利用した別邸が建設されていった。¹⁾

白川から屋敷群の中を抜ける美しい道は、注意深く配置された樹木、塀、数寄屋等の間を縫い、参道のような趣がある。

無鄰菴など、庭園から東山の借景を望むことができる。



- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 特に着目する通り
- （白線） エリアの主な通り

琵琶湖疏水関連施設

明治23年（1890）の琵琶湖疏水の建設は、沿線の土地利用に大きな変化をもたらした。²⁾ 関連施設であるインクライン、蹴上発電所、南禅寺の境内の水路閣、蹴上浄水場施設など、京都の近代化に寄与した諸施設が多数残る。



インクライン



水路閣



蹴上発電所

禅林寺（永観堂）

浄土宗西山禅林寺派の総本山。紅葉・桜の美しさで知られ、鹿ヶ谷通沿いに位置する。³⁾



禅林寺(永観堂)

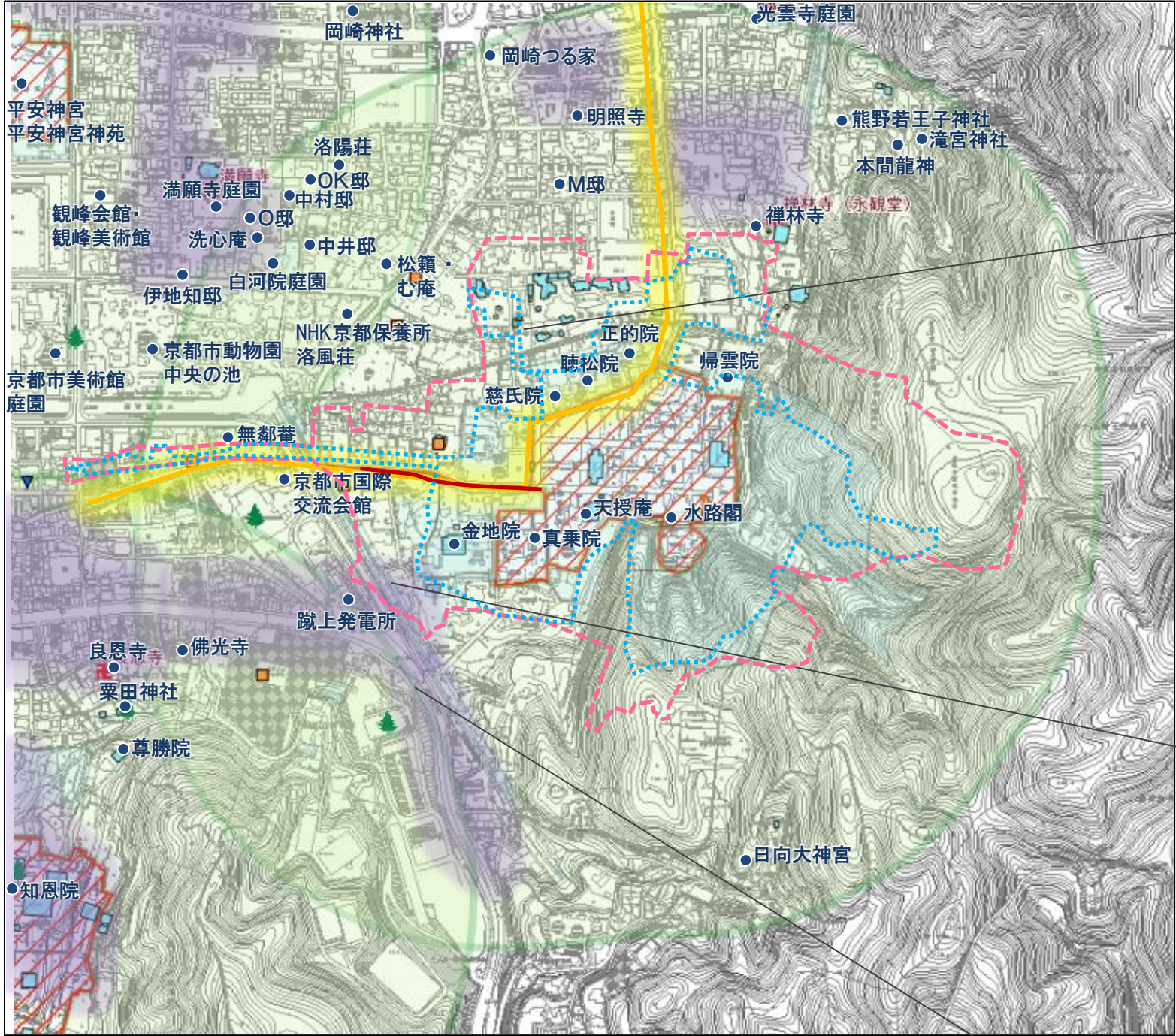
南禅寺塔頭

境内塔頭が11ヶ寺、境外塔頭が1ヶ寺あり、南禅寺と一体的な景観をつくり出している。金地院庭園は国指定特別名勝である。⁴⁾



金地院

エリアの概要



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 建築意匠の集積区域
- 明治25年以前から存在する市街地
- 界わい景観整備地区
- 歴史的景観保全修景地区

建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等

樹木

- 天然記念物
- 保存樹・区民の誇りの木
- 明治16-18年時点の境外
- 明治16-18年時点の境内

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

別邸群

東山裾の南禅寺旧境内一帯では、明治28年以降、旧境内地及び塔頭跡地が民間へと払い下げられ、そこに疎水の水を利用した別邸が建設されていった。

南禅寺旧境内北半部では、明治39年（1906）から塚本与三次により土地経営がなされ、7代目小川治兵衛と組んで計画的な別荘地開発がおこなわれた。大正から昭和初期にかけて一大別荘群が形成されることとなった。

現在は、住宅以外の用途に用いられる物件も増えてきたが、別邸群がつくり出す緑と水の豊かな空間は今日も維持されている。⁵⁾



琵琶湖疎水関連施設

一面農村風景であった岡崎の景観は、明治23年（1890）の琵琶湖疎水の建設により、沿線の土地利用に大きな変化をもたらした。⁶⁾

関連施設であるインクライン、蹴上発電所、水路閣、蹴上浄水場施設などは、現在も景観上重要なものである。



歩行者用トンネル



水路閣



インクライン



蹴上発電所

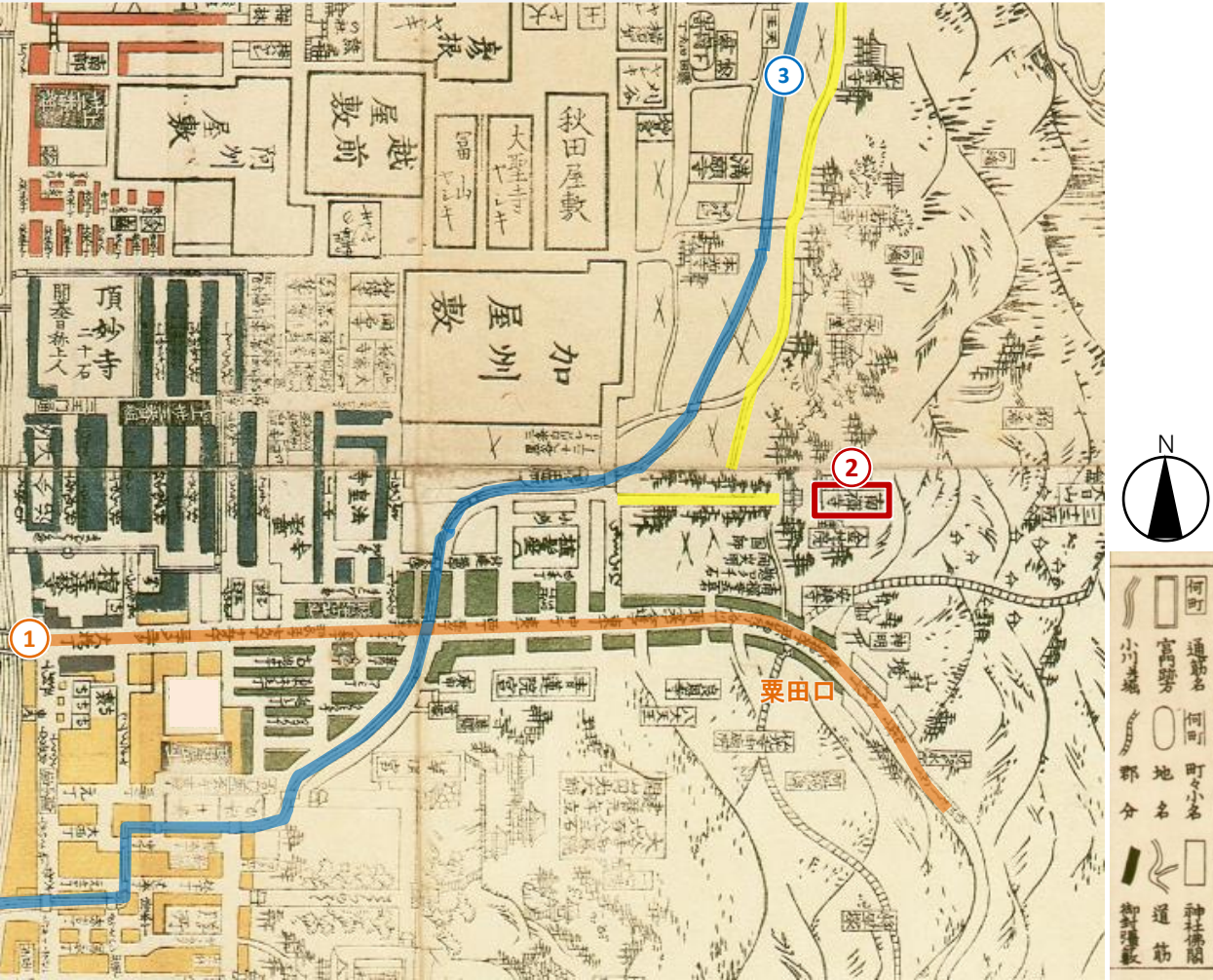
三条街道

都から東へ向かう官道（東海道・東山道・北陸道）が栗田口を通過して山科盆地に抜ける道として設定されたことは、岡崎に大きな影響を与え、流通・往来の中心に接する地域としての性格を帯びることになった。⁷⁾

周辺は、一面田畑である中で、三条街道沿いは市街化が早かった。現在は、蹴上発電所やインクラインが景観の核となっている。

エリアの土地利用の変遷（1）

明治2年(1869年)（上地政策による境内地減少前）



京町御絵図(明治2年)

① 三条街道

都から東へ向かう官道（東海道・東山道・北陸道）が栗田口を通過して山科盆地に抜ける道として設定されたことは、岡崎に大きな影響を与え、流通・往来の中心に接する地域としての性格を帯びることになった。⁸⁾

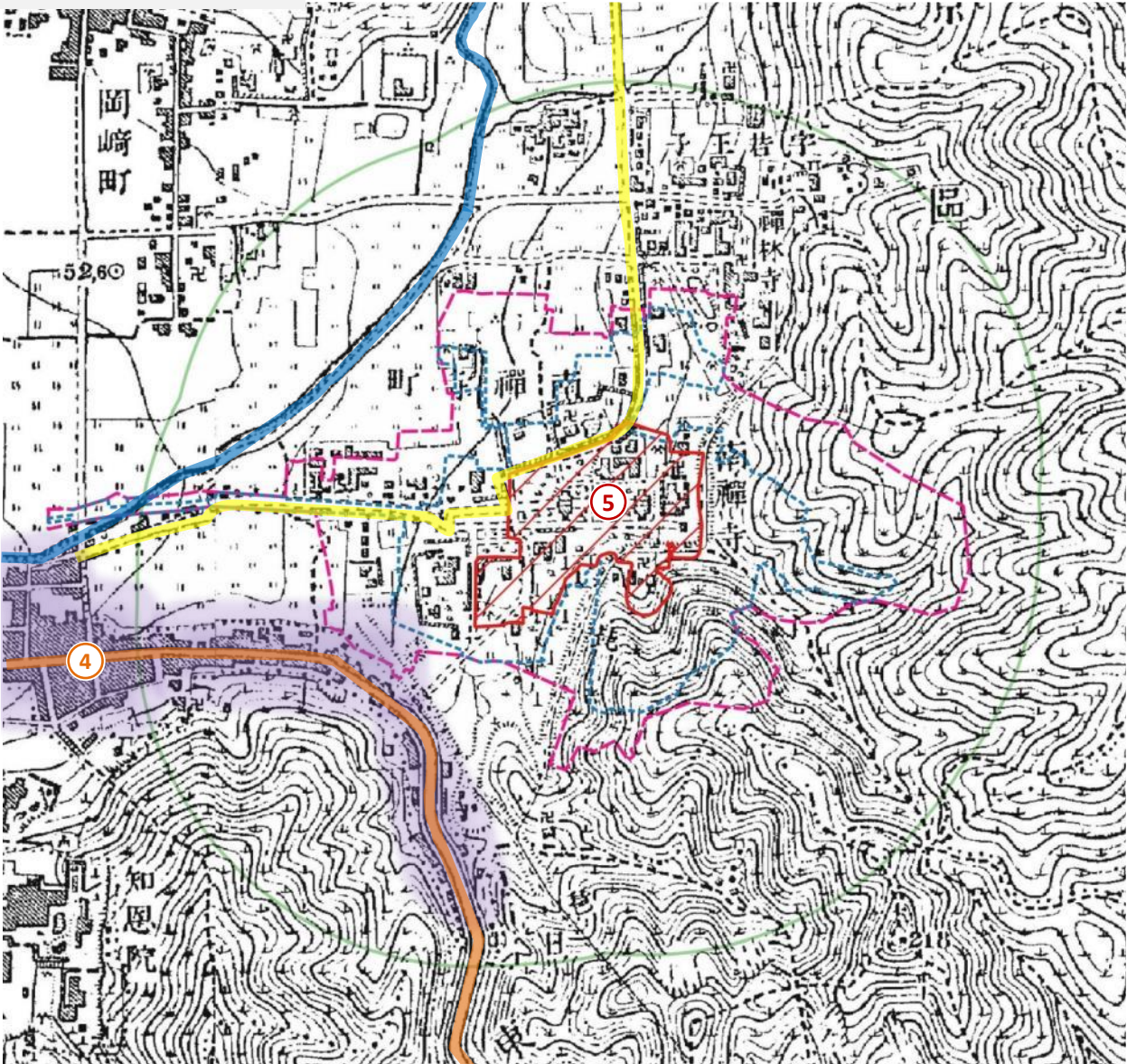
② 南禅寺境内

境内地は現在より広大であり、周辺は田畑に囲まれていたことが分かる。南禅寺門前は、比較的小規模な村であり、すべてが南禅寺領であった。⁹⁾

③ 白川

江戸時代までは白川がこの地を潤し、園池や畑作、あるいは手工業にその水が利用された。¹⁰⁾

明治25年(1892年)



明治16－18年時点の境外地 近景デザイン保全区域 資料: 仮製地形図(明治中期)(国土地理院所蔵)
明治16－18年時点の境内地 視点場（境内） 画像: 立命館大学アート・リサーチセンター
特に着目する通り

④ 三条街道

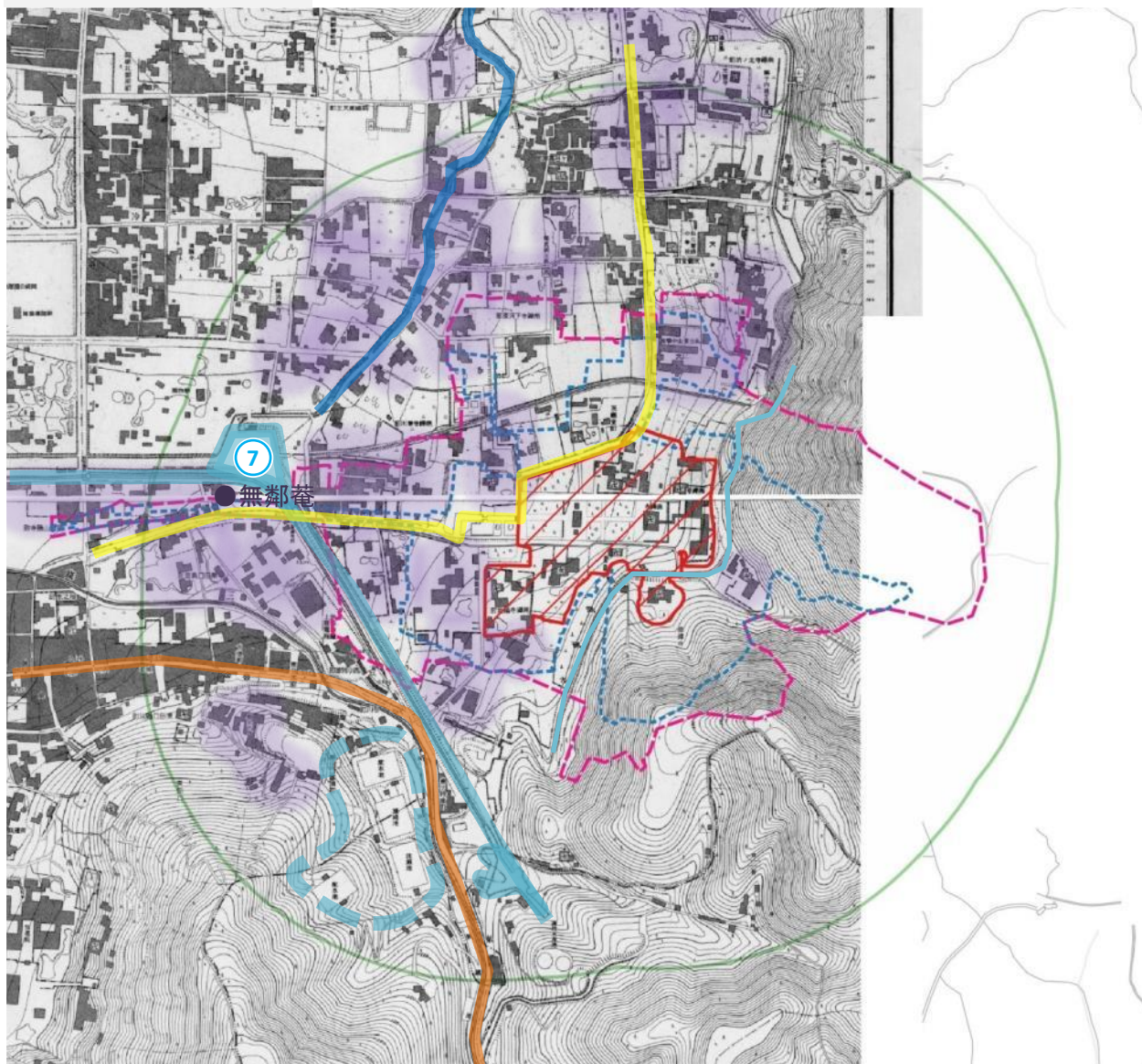
三条街道は洛中の延長で市街地化している。

⑤ 南禅寺境内

明治4年（1871）の寺社領上知で現境内地を除く寺領が上知された。明治5年（1872）の無檀無住寺院の廃止処分の太政官布告、明治11年（1878）の合寺令により、塔頭25院のうち17院が順次統廃合された。南禅寺境内地及び塔頭の多くがこうして空地化していった。岡崎一帯は、近世以上に広大な農村と化したのだった。¹¹⁾

エリアの土地利用の変遷（2）

大正11年(1922年)



資料：京都市都市計画基本図(大正11年)(京都大学文学研究科所蔵)
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

⑥ 別邸群

東山裾の南禅寺旧境内一帯では、旧境内地及び塔頭跡地が民間へと払い下げられ、そこに疎水の水を利用した別邸が建設されていった。別邸建設の口火を切ったのが、明治28年(1895)から造営された山縣有朋別邸無鄰菴である。この造営以降、別邸が徐々に造営されていった。疎水の水力発電への切り替えにより工場地利用が白紙化した南禅寺旧境内北半部では、明治39年(1906)から塚本与三次により土地経営がなされ、7代目小川治兵衛と組んで計画的な別荘地開発がおこなわれた。

塚本は、水力発電の出現により、別邸開発を進め、小川治兵衛の策定による疎水引水庭園が次々と造られ、大正から昭和初期にかけて一大別荘群が形成されることとなった。¹²⁾

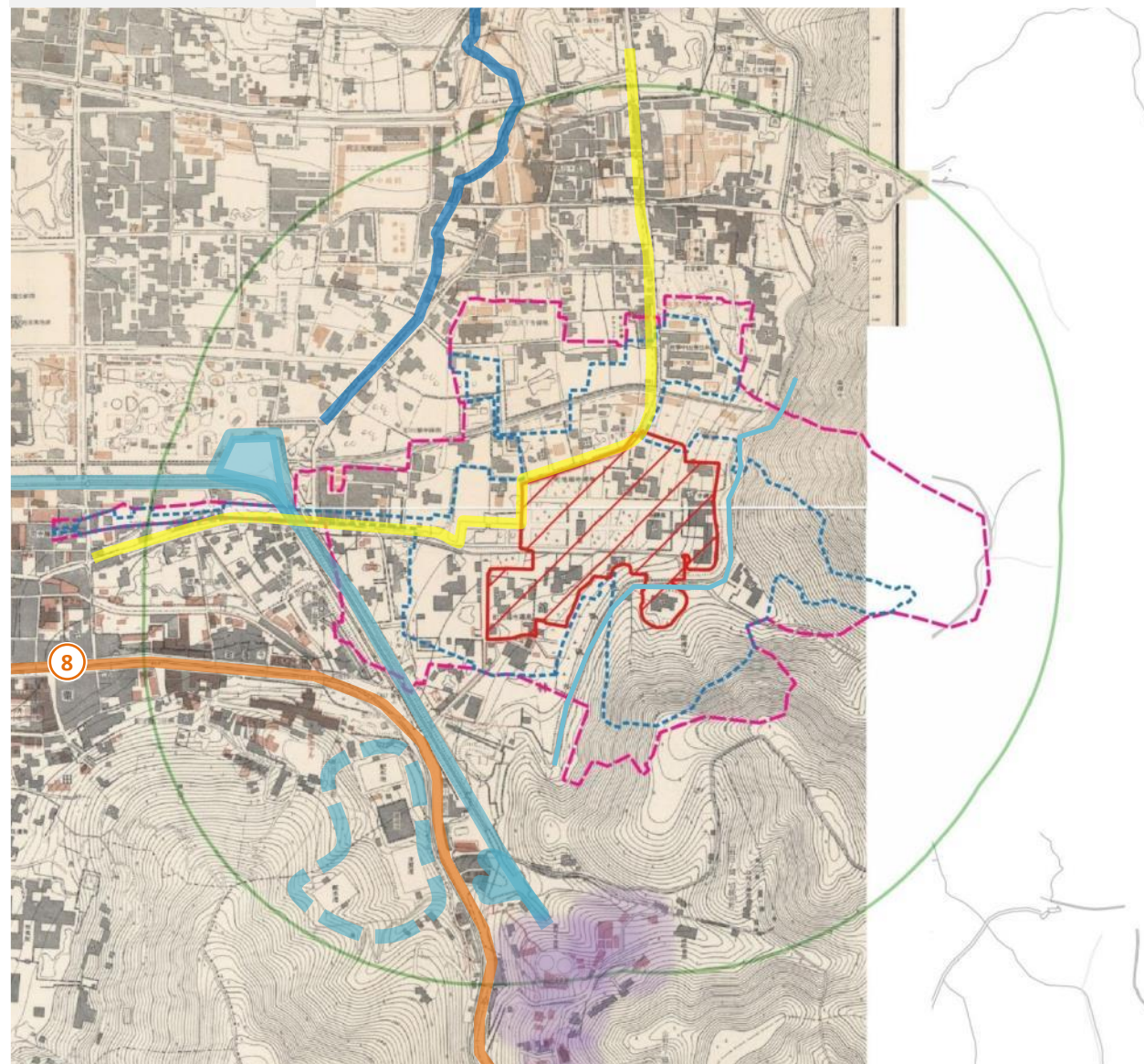
南禅寺の旧境内地は、宅地化しているが、疎水庭園が広がりを見せたということが分かる。

⑦ 琵琶湖疎水

一面農村風景であった岡崎の景観は、明治23年(1890)の琵琶湖疎水の建設により、沿線の土地利用に大きな変化をもたらした。¹³⁾

関連施設である蹴上発電所、水路閣は明治21年に、蹴上浄水場施設四棟は明治45年に建てられた。¹⁴⁾

昭和28年(1953年)



昭和10年都市計画図の内容 昭和28年の修正測図

⑧ 三条街道

市街化が進んでいる。

資料：京都市都市計画基本図(昭和28年)(京都市都市計画局所蔵)
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3,000)を参考にし、作成したものです。

南禅寺

東山の山麓、南禅寺の北に位置する。浄土宗西山禅林寺派の総本山。正しくは禅林寺と称し、聖衆来迎山無量寿院と号する。一般には永観堂の名でよばれ、本尊の阿弥陀如来は「見返り阿弥陀如来」として知られる。

現在、南禅寺には勅使門・紋々・仏殿（法堂）・方丈・庫裏・僧堂・鐘楼・別院南禅院の主要伽藍と、天授庵・帰雲庵・金地院・聴松院・南陽院・真乗院・高德庵・正因庵・牧護庵・慈氏院・正徳院の境内塔頭11ヵ寺および寺の北に境外塔頭光雲寺がある。うち三門、勅使門は国指定重要文化財。方丈は国宝に指定されている。¹⁵⁾

文化財

国宝	方丈	362				
国指定重要文化財	三門	361	勅使門	363		
市指定文化財	天授庵客殿 （附 玄関1棟・棟札1枚） 及び表門	364 365				
国指定史跡及び名勝	南禅院庭園	313				
国指定史跡	境内	315 317				
国指定名勝	方丈庭園	324				

〔国宝〕



方丈

〔国指定重要文化財〕



三門※1



勅使門※1

〔市指定重要文化財〕



天授庵客殿
（附 玄関1棟・棟札1枚）及び表門

〔国指定名勝〕



方丈庭園※1

〔国指定名勝及び名勝〕

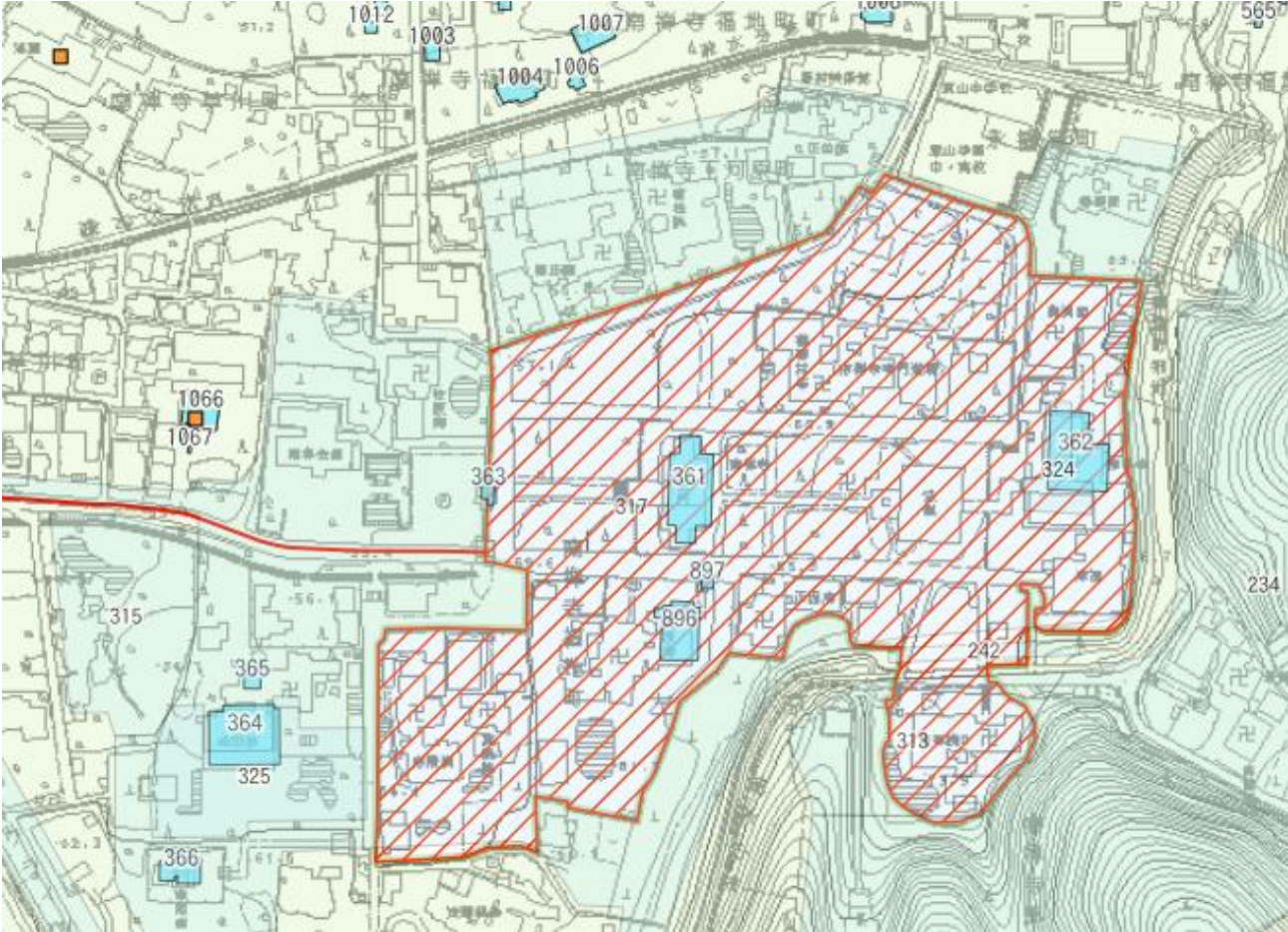


南禅院庭園※2

〔国指定史跡〕



境内※1



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

〔凡例〕

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

建築物・庭園

景観重要建築物・歴史的風致形成建築物

歴史的意匠建築物

界わい景観建築物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等

樹木

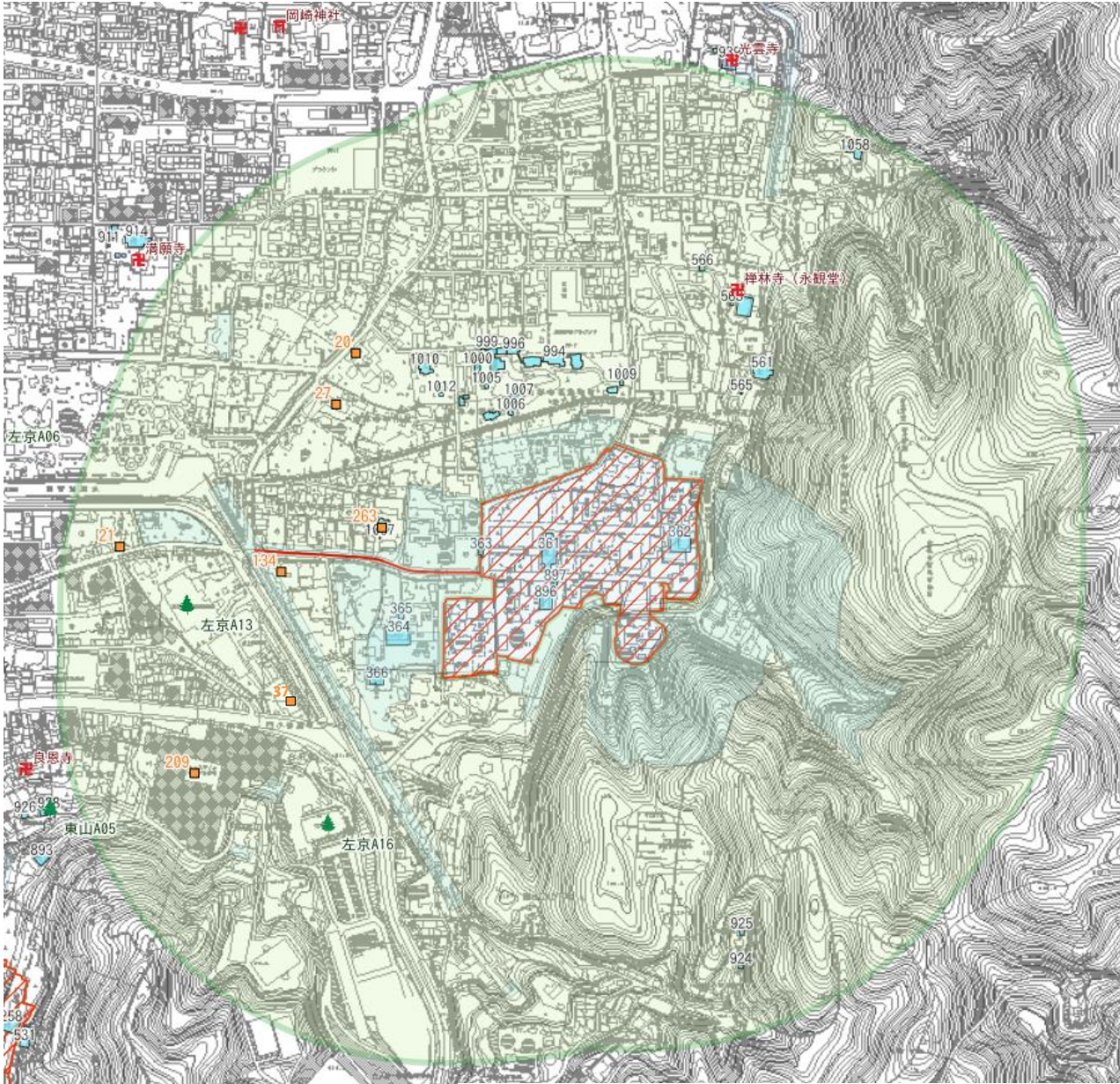
天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

※1：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）
※2：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

5



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

建造物・庭園

景観重要建造物・歴史的風致形成建造物

歴史的意匠建造物

界わい景観建造物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等

樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

南禅寺塔頭

境内塔頭が11ヶ寺、境外塔頭が1ヶ寺あり、鹿ヶ谷通沿い、南禅寺参道沿いには、塔頭が建ち並び、南禅寺と一体的な景観を形成している。¹⁶⁾

天授庵	帰雲庵	金地院	聴松院	南陽院
真乗院	高德庵	正因庵	牧護庵	慈氏院
正的院				

慈氏院

正的院

聴松院

金地院

南禅寺の塔頭の一。三門の南西にある・本尊は地藏菩薩・蘭溪道隆の法脈（大覚寺派）を継ぐ大業徳基（南禅寺68世住持）の開山。¹⁷⁾

本堂※
重文

茶室※
重文

庭園※
国指定特別名勝

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

6

南禅寺周辺の歴史的資産(2)

■ 禅林寺(永観堂)

〔府指定文化財(阿弥陀堂等)〕

東山の山麓、南禅寺の北に位置する。浄土宗西山禅林寺派の総本山。正しくは禅林寺と称し、聖衆来迎山無量寿院と号する。一般には永観堂の名でよばれ、本尊の阿弥陀如来は「見返り阿弥陀如来」として知られる。¹⁸⁾



阿弥陀堂※1
府指定



方丈※1
府指定



勅使門※1
府指定



鐘楼※1
府指定



御廟※1
府指定



中門※1
府指定

■ 日向大神宮

〔市登録文化財(本殿等)〕



内宮本殿（附 御門1棟・東西板垣）及び外宮本殿（附 御門1棟・東西板垣）
市登録

栗田山の支峰大日山の西麓に鎮座。朝日宮・日岡神明宮ともよばれる。また近世には、栗田口の東に位置したところから栗田神明宮とも恵比須谷神明ともよばれた。上の本宮に天照大神と三女神、下の本宮に瓊々杵尊と天御中主神をまつる。山科区内唯一の旧府社。

江戸時代初頭に東海道が日本最大の幹線となるにしたがい、街道に面して京の入口にある当社が崇敬されるに至ったと思われる。¹⁹⁾

■ 熊野若王子神社



大文字山西麓、禅林寺（永観堂）の北に鎮座。社殿は永暦元年（1160）6月の創建とし、後白河上皇が熊野那智権現をこの地に勧請したのが始まりという。社名は祭神の天照大神の別号（若一王子）にちなむ。禅林寺の鎮守社ともいわれ（元亨釈書）、正式には熊野若王子神社と号する。

また京郊の花の名所としても知られ、寛正6年（1465）3月4日には足利将軍義政がこの地で花見の宴を催している（応仁記）。江戸時代には聖護院（現左京区）門跡院家として「正東山若王子乗々院」と号し、寺領75石余を得（京都御役所向大概覚書）、その頃から「具足屋甚崇此社」と（東西歴覧記）、全国の具足商人の崇敬を集めている。境内の大杉は高さ32メートル余で、紀州熊野から社を奉遷した際ともに移植した記念木と伝える。²⁰⁾

※1：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

※2：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

■ 琵琶湖疏水関連施設

インクライン



〔国指定史跡〕

琵琶湖疏水による舟運ルートの一区間をなす傾斜鉄道。日ノ岡第三トンネル西口・蹴上間を結び、水路を離れて山腹の傾斜面に敷設した軌道上を、電力運転による台車に舟を乗せて上・下した。明治20年5月着工、同22年4月に完工したが、台車運転用電力を供給すべき蹴上発電所の完成を待って24年11月に運転開始。昭和50年、蹴上インクラインは史蹟公園に準じて保存処置が講じられ、元軌道上に舟を乗せた台車を復原し、静態保存。²¹⁾

蹴上浄水場



東山区栗田口華頂町にある日本最初の急速ろ過式の浄水場。京都市水道局所管。琵琶湖疏水を取水源とする。明治42年5月に着工し、同45年3月竣工。同年4月から京都市で初めて給水を開始。最初の給水能力は1日あたり6万8000立方メートル。水需要の増大に対応して拡張工事を行い、昭和37年11月には1日あたり19万8000立方メートルの給水能力をもつ近代的浄水場に発展。ツツジの名所としても知られ、毎年公開される。²²⁾

蹴上発電所



■37

琵琶湖疏水の水を利用した日本初の一般給水力発電所。明治45年（1912）に建てられた第二期の建物は赤煉瓦の外観で、蹴上のランドマークである。明治時代の水力発電所が現存する例は珍しく、貴重である。

水路閣



〔国指定史跡〕

南禅寺境内を通る水道橋。京都市所有。琵琶湖疏水の支流の一部をなす。明治21年完成。設計は田辺朔郎。半円アーチ式煉瓦造。²⁴⁾

無鄰菴

〔国指定名勝(庭園)〕



庭園※2
国指定

左京区南禅寺草川町にある山県有朋の別邸。昭和15年京都市に移管。もと南禅寺総門外松林茶店の一、湯豆腐で有名な丹後屋の跡に営まれた。名称は慶応3年（1867）山口県吉田で営んだ草庵にちなむ。邸内の燕庵写しの茶席名でもある。国の名勝に指定される池泉回遊式庭園は面積約3135平方メートル。小川治兵衛の作庭で、明治27年着工、日清戦争で一時中断、同29年に竣工した。自然主義的な趣きをもち、東山を借景とし、広い芝地内には低い刈込や捨石を配し、遣水には石橋・飛石が景をなす。明治期の新感覚で作られた庭である。邸内の建物は明治31年の建築で設計者は不詳。和風建築の母屋に洋館を付設。母屋は木造平屋建、一部2階建。洋館は煉瓦造2階建で狩野派の障壁画がある和洋折衷。なお、同邸は明治36年4月、山県・伊藤博文・桂太郎・小村寿太郎による日露開戦決定の場となった。²⁵⁾

南禅寺周辺の歴史的資産(3)

■ 東山



鴨川の左岸、京都盆地の東を区切る南北の山峰の総称。鴨東（洛東）の汎称としても用いられ、時代によっては地域名としての白川（河）と同義的に使われることもあった。北限は如意ヶ嶽、また比叡山までもというが、現在は、大津市にかかる比叡山から伏見稻荷山までをさすのが一般的である。東山三十六峰として賞され、「枕草子」冒頭の「春はあけぼの。やうやうしろくなり行く、山ぎはすこしあかりて、むらさきだちたる雲のほそくたなびきたる」も、東山の姿を描いたものとされる。²⁶⁾

■ 三条街道



鴨川の三条大橋（中京区）から栗田口（東山区）・松坂・日ノ岡峠（山科区）・四ノ宮河原を経、逢坂の関を超えて大津（現大津市）へ至る道。すなわち東海道の一部で、大津（街）道・近江路（道）などの称もある。
古代より山城国北部と東海・東山・北陸道方面とを結ぶ要路であり、雲母越・山中越（左京区）・渋谷越（東山区）などと並んで。京中から近江への通路の一つであった。特に平安末・鎌倉初期来は東と西を結ぶ主要道となり、政治・産業の面からも重要性をもつ。²⁷⁾

■ 文化財(建築物)、史跡・名勝 等 真澄寺別院 流響院

〔京都を彩る建物や庭園〕

大正2年（1913）に竣工。数寄屋建築と露地や表庭、芝庭などの複数の要素が組み込まれた自然感ある庭園は、近代別荘庭園の特徴を良く表している。



■20



もと南禅寺界隈の別荘地化に尽力した塚本与三次の邸宅で、岩崎小弥太によって建築・庭園とも今日の姿に整えられた。七代目小川治兵衛と子息の白揚が作庭した庭園として、その特徴が当初のまま保存されており、芸術的な観点からも卓越したものである。

■ 瓢亭

〔京都を彩る建物や庭園〕

400年余り前、小さな腰掛茶屋として開業し、天保8年（1837）から料理屋に。建物はくずやと呼ばれる茅葺き屋根の座敷で、庭園は植熊作。



■21



順正南禅寺店

〔国登録文化財(書院、石門)、京都を彩る建物や庭園〕

天保10年（1839）に蘭学医として著名な新宮凉庭によって開設された医学校のあった地である。敷地中央の書院や石門は、往事そのままに残る貴重な建物で、庭園も昔の様相をよく留めている。



書院・石門



国登録 ■263

南禅寺順正は、蘭学医として名高い新宮凉庭が天保10年（1839）に建てた医学校であり文人のサロンであった「順正書院」を元とする。敷地中央に位置する書院は、入母屋造棧瓦葺、数寄屋造となっており、東南に上段の間を置き西側にイロりの間、次の間などを配し、北に茶室を付設する。室内における上段や天井の構成、南側壁面の意匠には、個性的な工夫が見られる。また、書院と供に「花洛名勝図会」にも見られる前庭と石門は、近世来の様相を色濃く残し、書院のまわりを囲む庭は、流水や園地を配したものとなっている。書院、庭の一部がよく保存され、南禅寺と一体となった江戸時代の門前の姿を今に伝え、歴史的な景観を形成するものとして貴重な存在である。

洛翠

〔京都を彩る建物や庭園〕

明治末期に7代目小川治兵衛が作庭。庭園内には琵琶湖を模した池があり、周囲には280年前に中国から伝来したとされる画仙堂や茶室「溪猿亭」がある。



■27



八千代

〔京都を彩る建物や庭園〕

南禅寺参道に面した純和風旅館。100年以上経った草庵茶室に依った建物は、簡素枯淡な趣を持つ。敷地の3分の1を占める庭園は、植冶（小川治兵衛）の作庭で四季折々の風情が楽しめ、静寂な時へと誘う。



■134



南禅寺周辺のその他の歴史的資産(1)

都ホテル葵殿庭園及び佳水園庭園

[市登録名勝、京都を彩る建物や庭園]

七代目小川治兵衛に築かれた葵殿庭園は、ダイナミックな雲井の滝、流れ蹲、沢飛び石などが特徴的で、長男白楊作の佳水園は、山水が岩肌を這うように流れ、繊細かつ躍動感のある庭となっている。



209



ウェスティン都ホテル京都の敷地内に所在する葵殿庭園と佳水園庭園は、近代庭園の先駆者として知られる造園家、7代目小川治兵衛（植治）及びその息子白楊の作庭によるものである。葵殿庭園は、植治の最晩年、技量が最も円熟していた頃に築かれており、佳水園庭園は、白楊の手がけたものである。葵殿庭園は、紅葉やアセビの群植とシダ類に覆われた急斜面地を骨格としており、その斜面を縫うように流れと沢飛びが築かれている。佳水園庭園はもともと、大正15年（1926）に、第23代内閣総理大臣清浦奎吾の喜寿を記念して建てられた喜寿庵の前庭である。庭園の骨格には、露出したチャートの岩盤をほぼそのまま利用しており、水流が岩のしわを伝って落ちている。双方の庭園は、巧みに地形を利用した庭園として貴重である。

[重要文化財]



東照宮※
重文



野村碧雲荘※
重文

[国指定名勝]



国指定

[市指定名勝]



光雲寺庭園
市指定

■ 樹木等

名称	天然記念物	保存樹	区民の誇りの木
エノキ:国際交流会館			 左京A12
クスノキ:国際交流会館			 左京A13
カツラ:蹴上浄水場			 左京A16
ナギ:熊野若王子神社			 左京B18

景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

東山風致地区

【概況】

地区全体として、東山連峰を構成する銀閣寺山や大文字山、如意ヶ嶽、稻荷山、深草、大日山、安祥寺山等の山並みや、吉田山等の緑が保全されている。また、山科北東（毘沙門堂）の山地では、林業による植林等が施され、緑豊かな森林となっている。
各地域の山ろく部の社寺境内地の社寺林や参道の樹林、天智天皇陵等の緑地、京都国立博物館、蹴上浄水場や深草墓園等の大規模敷地の樹木が、山地部の森林と一体となって量感のある緑地空間を形成している。
屋敷周りの生垣や庭木、敷地規模が比較的大きい住宅地における生垣や庭木等により、緑の豊かな地域環境となっている。

【良好な景観の形成に関する方針】

- 永観堂から南禅寺にかけての社寺地帯の文化財と自然とが調和した環境
若王子神社・永観堂から南禅寺にかけては、多くの文化財建造物と美しい自然が調和した良好な環境を維持している。南禅寺中門からインクラインの間には、松並木の参道が続き、参道沿いには植樹帯が連続してゆとりのある緑豊かな景観を形成している。家並みには、塀をめぐらせた邸宅や料亭、あるいは開放的な茶店風の料理屋等がある。
インクライン以西では、和風の塀と庭の樹木、生垣、和風住宅等が混在して、調和のなかにも変化のある景観が見られる。
南禅寺境内の北側は、明治時代の琵琶湖疏水建設に際して小川治兵衛により作られた庭園が特別な景観をなし、各屋敷は疏水の水を利用した広大な庭園を構える。また、白川から屋敷群の中を抜ける美しい道は、注意深く配置された樹木、塀、数寄屋等の間を縫い、参道のような趣がある。このため、これらの風致を維持する。
- 岡崎公園一帯の和風建築による落ち着いたきのある環境や無鄰菴等から東山の借景
岡崎公園一帯は、わが国でも有数の文化施設が集積した地域である。神宮道及び仁王門通沿道は、岡崎公園の諸施設とも関連して、近代的デザインで3階建て以上の堅牢建築物が多く建つ。一方、山ろく部の住宅では緑豊かな日本瓦ぶき和風建築による落ち着いたきのある環境を形成している。
ここでは、平安神宮や庭園群からの借景空間の保全や南禅寺北西に広がる邸宅群の景観の保全、総門に至る門前、仁王門通、神宮道、岡崎道や疏水沿線等の沿道景観の整備、無鄰菴等から東山の借景を望む視線の方向となる南禅寺参道における高さの抑制、意匠・形態等に重点を置く。



1) 南禅寺門前



2) 南禅寺北側の町並み



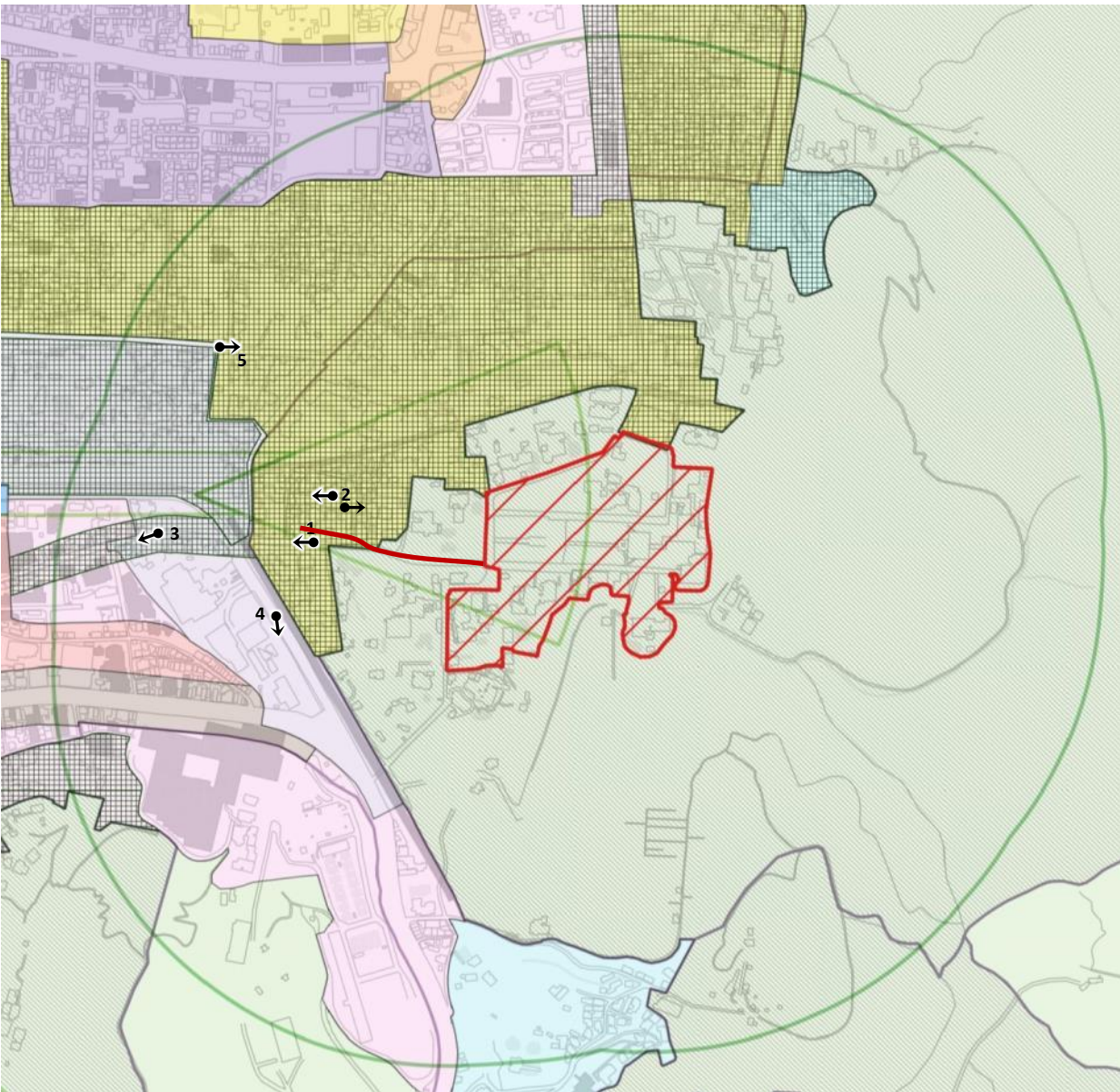
3) 無鄰菴南側の町並み



4) 仁王門通の町並み



5) 京都市動物園北側の町並み



【凡例】

眺望景観保全区域

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

風致地区

風致地区第1種地域

風致地区第2種地域

風致地区第3種地域

風致地区第4種地域

風致地区第5種地域

風致特別修景地区

景観地区

山ろく型美観地区

山並み背景型美観地区

岸辺型美観地区

旧市街地型美観地区

歴史遺産型美観地区 一般地区

歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区

歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区

重要界わい景観整備地域

沿道型美観地区

市街地型美観形成地区

沿道型美観形成地区

建造物修景地区

山ろく型建造物修景地区

山並み背景型建造物修景地区

岸辺型建造物修景地区

町並み型建造物修景地区

その他

伝統的建造物群保存地区

歴史的風土保存地区

歴史的風土特別保存区域

1) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書.京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課、 2013、 p.27
2) 同上、 p.24
3) 平凡社. 寺院神社大事典 1 京都・山城. 平凡社、 1997、 p.109
4) 同上、 p.539
5) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書.京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課、 2013、 p.27
6) 同上、 p.24
7) 同上、 p.19
8) 同上、 p.19
9) 下中邦彦. 日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名. 平凡社、 1979、 p.151
10) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書.京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課、 2013、 p.27
11) 同上、 p.24
12) 同上、 p.24
13) 同上、 p.24
14) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典.淡交社、 1984、 p.530
15) 平凡社. 寺院神社大事典 1 京都・山城. 平凡社、 1997、 p.534-p.542
16) 同上、 p.539
17) 同上、 p.541
18) 同上、 p.109
19) 同上、 p.579
20) 同上、 p.555
21) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典.淡交社、 1984、 p.71-p.72
22) 同上、 p.349
23) 同上、 p.349
24) 同上、 p.529-p.530
25) 同上、 p.906